



大使 松山さんは、米国の長年ジャーナリストとして活躍しましたね。私もニューヨークに長い間駐在した者として、今のお話に全く同感です。非常に鋭い観察だと思えます。松山さんのお話は、カナダは米国の衛星国に過ぎない、と非難し

たブラウダの社説と全く対照的です。その社説がいかに関違っているか、松山さんがお話しされたことで明らかです。カナダと米国は非常に緊密な友邦ですが、反論があれば反論する、そしてそれでも友情にはヒビが入らない——そういう幸福な関係にあります。それは、両国の信条が基本的に同じで、文化的背景も似ている、同じような伝統をもち、同じような民主制度を信じているからです。ですから、基本的にはひどくかけ離れた意見の相異というのはありません。しかし、松山さんが指摘されたように、反対すべきときには反対してきましたし、アメリカのベトナム介入にも加担しませんでした。中国承認を引つ込めるといふこともしませんでした。カナダが中国を承認したのは一九六八年ですが、アメリカに対するわれわれの敬意がなければ、一九五八年に承認するところでした。そして結局、これ以上は待てない、とアメリカに到達したわけです。お話のように、キューバなどに対しても、アメリカとは違うアプローチをとってきました。立ち場の

違いは、丁寧に、しかしはっきりとアメリカ側に示してきた、と私は思います。それによって、両国の基本的な関係がそごなわれることはありません。おそらく、カナダと日本ほど、米国とこんなに親密な関係をもっている国は非常に少ないでしょう。わが国の対米貿易額は巨大です。カナダ人とアメリカ人同士で結婚するケースも非常に多いですね。アメリカに親戚のない人は珍らしいぐらいます。私の妹はアメリカ市民になっていますし、お二人、めい一人もアメリカ人です。アメリカ人のいとこの数は相当のものです。私の妻も、アメリカ人のいとこがいて、サンフランシスコに住んでいます。というわけで、両国民は親類同士ですよ。お互いの間に何が起ころうと——例え意見が完全にわかれることがあっても——いつてみれば家庭内のできごとです。カナダは、アメリカと比べて非常に小さなパトナーですが。

ただ、アメリカはどうもカナダを、空気がみだりに考える傾向があります。ニューヨークに赴任していた頃、コネチカット州の非常に有名な私立学校に本を寄贈するため行ったときのことですが、校長が全生徒の前で私をニューヨーク市にある英国大使館の総領事だ、と紹介していました。演壇に立った私は、もちろん、この学校を本の贈呈先に選んで良かった、校長のご紹介を伺って、この学校ではカナダの本がぜひ必要だということが分つた——と言ってやりました。こういうことは、よくあることです。カナダは米国よりずっと小国なので、感情的になりすぎていくのかも知れませんが、アメリカ

人はカナダについてもっと知ってしかるべきだ、という感じがありますね。例えば、アメリカ人は英国が今でもわが国にいろいろ口出ししていると考えているふしがあります。とんでもないことです。もつとも、ただアメリカにたてつくのが面白からそうすることもありますがね。家族みたいなのです、本当に。カナダの關係はアメリカの關係と電話で話し合うし、お互いに相手を敬称ぬきで呼べる仲にあります。いろいろな問題を、電話で片付けていますよ。

## 女性 の 地位

大使 白いシャツに、地味なネクタイ……。松山 カナダから帰ったとき、明かるとい国から非常に暗い国にきたような感じがしました。カナダの連邦政府には女性の關係が三人、それに女性の大使も何人かいるようですね。

大使 そうです。現在、女性大使が三人、女性關係が三人います。いずれも非常に優秀な方々です。女性の關係が三人もいるというのは、世界でも珍らしいのではないですか。アメリカでは確か女性の關係は二人でした。

松山 ところで私には娘が三人ありまして、女性の地位に大きな関心をもっていますが、カナダで多くの女性がいろいろな分野で活躍していることに感心しました。大使にもお嬢さんが三人いましたね。

大使 松山さんはカナダの外務省へ行かれたとのことですが、そこで働いている女性にも上級職員が多いですよ。松山さんがお会いになったウィットルトン日本部長の奥さんも、外務省の上級職員です。

大使 ええ。長女と次女は結婚して子供がいます。三人目は去年大学を卒業して、現在物理療法士になっています。

松山 それはいいですね。私はカナダで政府官庁、大学、民間研究機関、新聞社などを訪ねたのですが、どこでも働いている女性が多かったですね。しかもただお茶を入れるというのではなく、管理職の仕事をしている。日本の外務省とカナダの外務省の最大の違いは、カナダの外務省の中が非常に色彩豊かだということです。色とりどりの服装をした女性がたくさん勤めていますから。日本の外務省では、黒っぽい背広を着た男たちが主流で……。

松山 それはいいですね。私はカナダで政府官庁、大学、民間研究機関、新聞社などを訪ねたのですが、どこでも働いている女性が多かったですね。しかもただお茶を入れるというのではなく、管理職の仕事をしている。日本の外務省とカナダの外務省の最大の違いは、カナダの外務省の中が非常に色彩豊かだということです。色とりどりの服装をした女性がたくさん勤めていますから。日本の外務省では、黒っぽい背広を着た男たちが主流で……。

松山 その点でいえば、日本は開発途上国ですよ。先進国ではない。

大使 先日、外務省の国連局長とお会いしたとき、メモをとっていたのは、かつて国連本部の事務局で働いていたとい

松山 ある晩、須磨駐加大使から夕食会にお招きにあずかって公邸にうかがったのですが、そこでお会いした三組のカップルの奥さん方は、一人は建築家、一人はジャーナリスト、もう一人はデザイナーと、いずれも自分の仕事をもっていました。

大使 日本の女性も、もう少しいろいろな分野に進出して欲しいですね。ちょっとでてるのが遅い感じがします。

松山 日本は開発途上国ですよ。先進国ではない。